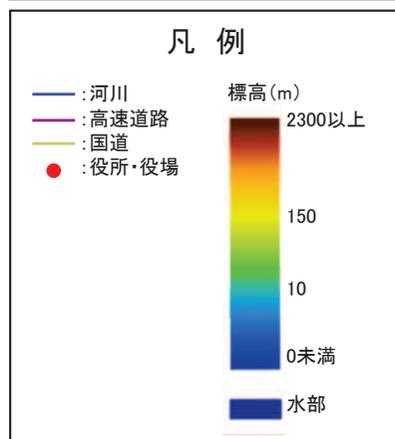
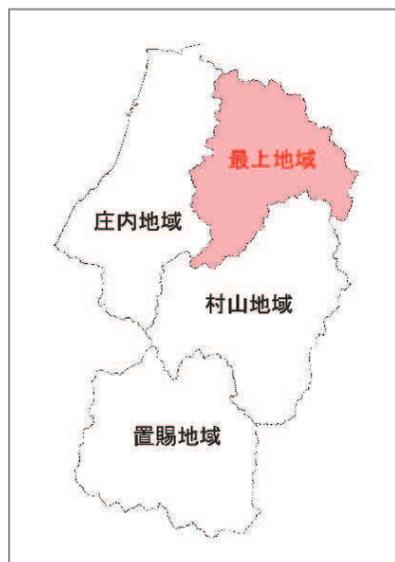


# 【参考資料】自然の恵みと災害リスク 〈最上地域〉

- 最上地域は、東は奥羽山脈、西は出羽山地に囲まれており、地域の南部から西部にかけて最上川が貫流し、小国川、鮭川、銅山川等の中小河川が合流し、その扇状地に新庄盆地、向町盆地などの平地が形成され、そこに農地や集落が散在しています。豊富な雪解け水と盆地気候が育む農産物や豊かな森林資源に恵まれています。
- 一方で、盆地の水はすべて「最上峡」という狭窄部に集まり、日本海へと注ぐ構造となっており、この地形が豊かな恵みをもたらすと同時に、水や雪が逃げ場を失うリスクを生み出しています。



地図出典：国土地理院デジタル標高地形図（山形県）に加筆し作成

# 1. この地域の地形からもたらされる自然の「恵み」

## (1) 豊かな自然と森林資源

- 最上地域は、四方を出羽山地や月山、神室連峰など高く険しい山々に囲まれ深い原生林が多く残り、全国でも有数の「巨木の里」として知られています。金山町では、町域の4分の3を「金山杉」が占めており、建築で使用される杉は、通常40～50年で伐採されるものが多い中、「金山杉」は樹齢80年以上の大径木となってから伐採・利用します。冬が長く、雪深い気候の中でゆっくりと成長するため、年輪が細かく均一で強度があり、建築用材としてとても優れています。



出典：やまがたへの旅  
図 月山



出典：金山町  
図 金山杉

## (2) 火山の恵みと温泉

- 開湯1200年を誇る肘折温泉をはじめとする、赤倉・瀬見の温泉地も日本の原風景を偲ばせる昔ながらの温泉地として多くの人を魅了しています。



出典：大蔵村  
図 肘折温泉



出典：戸沢村  
図 最上川舟下り

## (3) 自然と共生する地域の暮らしと文化

- 出羽山地を東西に貫く最上峡の雄大な自然の中を舟で下る「最上川舟下り」は、四季折々に美しい表情をみせる最上峡の絶景を満喫することができます。

大地の成り立ちと災害リスクを正しく認識するとともに、土地がもたらす「恵み」についても併せて理解する防災学習が重要です。

参考文献：東北森林管理局山形森林管理所最上支所HP

## 2. 「恵み」と共にある災害リスク

### (1) 地震災害リスク

- 新庄盆地断層帯は、山形県最上地方の新庄盆地の東縁および西縁に位置する活断層帯です。新庄盆地断層帯は、その分布形態から新庄盆地断層帯東部と新庄盆地断層帯西部に区分されます。新庄盆地断層帯東部は、山形県新庄市から最上郡舟形町に至る断層帯で長さは約22kmで、概ね北北東-南南西方向に延びており、東側が西側に対して相対的に隆起する逆断層です。新庄盆地断層帯西部は、最上郡鮭川村から大蔵村に至る断層帯で長さは約17km、ほぼ南北方向に延びており、西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。
- 新庄盆地断層帯東部は、断層帯全体が一つの活動区間として活動した場合、マグニチュード7.1程度の地震が発生する可能性があり、今後30年の間に地震が発生する可能性は我が国の主な活断層の中では高いグループ（3%以上）に属することになります。
- 新庄盆地断層帯西部では、本断層帯西部では過去の活動が十分に明らかではなく、最新活動時期が特定できていないため、信頼度は低くなりますが、今後30年の間に地震が発生する可能性は、我が国の主な活断層の中ではやや高いグループ（0.1%以上-3%未満）に属しています。

### (2) 火山災害リスク

- 大蔵村の肘折は活火山であり、肘折温泉郷は爆発的な噴火により火口が陥没し、形成された肘折カルデラ（窪地）の中にあります。現在、目立った噴気活動はありませんが、地熱活動が継続しています。肘折カルデラの形成は約1万年前であり、それ以降の噴出物を残す火山活動は確認されていません。
- 現在（2026年3月時点）、噴火警戒レベルは「1（活火山であることに留意）」であり、定期的に観測・監視が行われています。

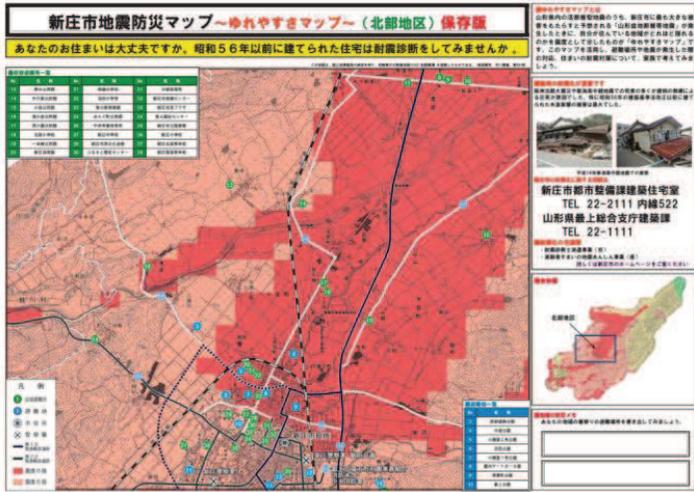


図 新庄市地震防災マップ（新庄市HP）



図 火山灰が堆積して変化した凝灰岩が観察できる地蔵蔵の洞窟（大蔵村HP）

ハザードマップ(HM)  
参考情報  
(R8年3月時点)

山形県 地震ハザードマップ



リンク先：山形県HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

## 2. 「恵み」と共にある災害リスク

### (3) 雪害リスク

- 山形県は県全域が「豪雪地帯」に指定されていますが、最上地域は全域が「特別豪雪地帯」に指定されている国内有数の豪雪地帯です。特に大蔵村の肘折温泉では2018年2月13日に積雪深445cmを記録するなど、全国でも群を抜いています。積雪そのものもさることながら、雪おろし中の事故などが発生に特に注意が必要です。
- 新庄市にある「独立行政法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄雪氷環境実験所」では、最先端の機器を用いて雪に関する研究が行われています。この研究所は自然に近い雪を降らせることができる実験棟を持ち、雪やその影響に関する研究を行う機関として、世界的な評価を受けています。



図 雪壁

### (4) 水害リスク

- 最上峡は、出羽丘陵の隆起で内陸湖化した時に誕生した排水路です。ここはまた、今日まで最上川が流路を変えずに、出羽丘陵の隆起分を削り込んでいる場所でもあります。流域では、山々が平地部近くまで迫り、河川が扇状地を一気に流下するため、洪水の流出が短時間に集中し、洪水が発生しやすい地形です。
- 近年、集中豪雨等による水害が全国的に頻発しています。令和6年7月25日から26日にかけて、山形県では庄内・最上地域を中心に線状降水帯が発生し記録的な大雨となり、人的被害と多数の建物被害が発生しました。新庄市を流れる最上川支流の新田川では堤防決壊による河川氾濫が発生しました。

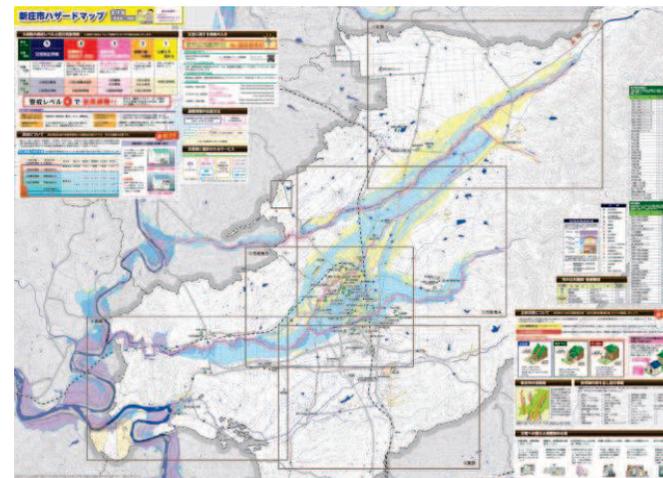


図 新庄市洪水ハザードマップ

### (5) 土砂災害リスク

- 県内では、奥羽山脈及び朝日山地等の山地に囲まれた急傾斜地が多いこと等から、がけ崩れや土石流などの土砂災害危険箇所が県内全域に点在しています。

参考文献:山形県雪対策基本計画(第4次)R2.3、気象庁HP

ハザードマップ(HM)  
参考情報  
(R8年3月時点)

山形県雪情報システム



リンク先:山形県HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。

重ねるハザードマップ  
(最上地域・洪水・土砂災害HM)



リンク先:国土交通省HP

※詳細な情報は、皆さんがお住まいの自治体のHPより公開されているものをご確認ください。